

# 民主寄りの医師を起用 自民支持の看護協会外す 厚労相、社保審でも

2009年10月28日 提供：共同通信社

長妻昭厚生労働相ら厚労省の政務三役は27日、厚労相の諮問機関である社会保障審議会の医療保険部会で、任期切れを迎えた委員の代わりに、先の衆院選で自民党を支持せず自主投票とした長崎県医師連盟諫早支部の高原晶（たかはら・あきら）支部長らを充てる方針を固めた。

政治団体が自民党を支持する日本看護協会副会長の坂本（さかもと）すが委員も、静岡県立大の紙屋克子（かみや・かつこ）教授に替える考え。

長妻厚労相はやはり諮問機関である中央社会保険医療協議会（中医協）の委員に、民主党を支持した茨城県医師会の理事を起用することを26日に発表したばかり。

社保審の医療保険部会は診療報酬改定の基本方針を定める役割を持っており、自公政権からの路線転換が強まりそうだ。

同部会の委員は医師や大学教授、健康保険組合の代表、自治体首長ら計21人。9月に任期切れを迎えた委員が6人おり、うち4人は交代させる方針。

ほかの新しい委員としては、医療事故の紛争解決に取り組む和田仁孝（わだ・よしたか）早稲田大大学院教授や、全国骨髄バンク推進連絡協議会の大谷貴子（おおたに・たかこ）会長の名前が挙がっている。